(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2012-245980
(P2012-245980A)
(43)公開日　平成24年12月13日(2012.12.13)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
B65D 85/50	(2006.01)	B65D	85/50	T	3E033
B65D 77/20	(2006.01)	B65D	77/20	A	3E035
B65D 81/26	(2006.01)	B65D	81/26	F	3E067
B65D 43/04	(2006.01)	B65D	43/04		3E084
B65D 1/26	(2006.01)	B65D	1/26	Z	

審査請求 未請求　請求項の数 3　ＯＬ　（全 13 頁）

(21)出願番号　特願2011-116554 (P2011-116554)
(22)出願日　平成23年5月25日 (2011.5.25)

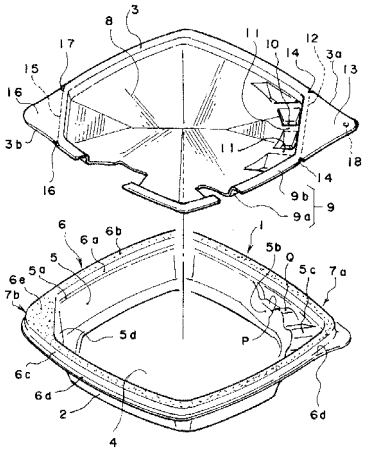
(71)出願人　591180646
マルイ包装株式会社
北海道札幌市白石区北郷８条３丁目５番１１号
(74)代理人　100112416
弁理士　清水　定信
(72)発明者　細田　優
北海道札幌市白石区北郷８条３丁目５番１１号　マルイ包装株式会社内

Ｆターム(参考)　3E033 AA10 BA18 CA20 DA04 DA08 DA10 DE07 EA01
3E035 AA20 AB07 BA02 BB10 BC02 CA02

最終頁に続く

(54)【発明の名称】液切り容器

(57)【要約】　（修正有）
【課題】液体と共に収納した収納物が、柔らかく小さくても、液切りの際壊すことなく外部に排出もせず、液体だけを速やかに排液可能な液切り容器を提供する。
【解決手段】容器本体２の上部開口を密閉する蓋体３に、容器本体２の堰部５ｃに対応する位置の角部７ａに液切り通路を外部に開放するための第１の蓋体部分３ａと、容器本体２の別の角部７ｂに対応する位置に、容器本体２内に通じる通気通路を形成する第２の蓋体部分３ｂとが設けられ、第１の蓋体部分３ａを開くことによってなされる容器本体２内の液体の排出が、第２の蓋体部分３ｂを開いて外気を容器本体２内に取り込みながら行われるようにした。
【選択図】図２



【特許請求の範囲】
【請求項１】
底部と側壁部とからなり上部が開口する収納物を液体と共に収納する容器本体と、該容器本体の上部開口に着脱可能に設けられ、該上部開口を密閉する蓋体と、よりなり、
前記容器本体および蓋体は、それぞれ合成樹脂材で一体成形され、
前記容器本体は、側壁の一部を中心にその左右方向に延びる広めの領域に亘って前記側壁部が底部より連続して所定高さに立ち上がる立ち上がり部と、この立ち上がり部に連続しかつ前記領域における前記立ち上がり部の延設方向と交差する方向に略水平に延びる堰部とを有し、
前記蓋体は、前記容器本体の前記堰部に対応する位置に、前記堰部に略対応する形状であって、閉蓋時に該堰部との間に所定の間隙を形成する間隙形成部を有し、該堰部と間隙形成部との間の間隙が液体を排液する液切り通路となり、
前記容器本体の上部開口を密閉する前記蓋体には、前記堰部に対応する位置の外周側に前記堰部と間隙形成部との間隙で形成する液切り通路を外部に開放するための第１の蓋体部分と、前記容器本体の前記第１の蓋体部分以外の別の外周部近傍位置に、前記容器本体に通じる通気通路を形成する第２の蓋体部分とが設けられ、
前記第１の蓋体部分を開くことによってなされる前記容器本体内の液体の排出が、前記第２の蓋体部分を開いて外気を容器本体内に取り込みながら行われるようにしたことを特徴とする液切り容器。
【請求項２】
前記蓋体は、天部が周辺部から中心部に向かって低くなるように傾斜または湾曲していることを特徴とする請求項１に記載の液切り容器。
【請求項３】
前記堰部は、第１の蓋体部分方向に向かう複数の凹凸部が左右方向に亘って並列されてなり、前記間隙形成部は、前記凹凸部に対応する複数の凸凹部からなり、堰部の凹凸部に間隙形成部の凸凹部が間隙を有して嵌入され、該間隙が液切り通路となることを特徴とする請求項１または２記載の液切り容器。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、収納物を液体と共に収納し、収納部の使用時に液体を排出して使用する液切り容器に関し、例えば、容器本体内の調味液、塩水、保存液等の浸漬水中に浸漬したウニを、その浸漬水から分離して取り出すことで食膳等に提供可能にするウニの水切り容器に関する。
【背景技術】
【０００２】
従来から、生ウニを商品化するため、採取したウニを殻割りして生ウニを取り出し、ピンセット等で内蔵等を取り除きながら良質の生ウニを選別している。この場合に、生ウニをその原形を維持するためミョウバン液などの浸漬水に浸漬した後、十分に水切りし、経木で製作した生ウニ用折箱にフォーク等を使って並べて収納している。また、この生ウニ用折箱を積み重ねた状態で出荷している（例えば、特許文献１参照）。
【０００３】
ところが、この折箱を用いる従来技術にあっては、生ウニの下面が折箱に接しているために水分が折箱に吸収されるし、表面側は乾いてしまうことから早期に水分が失われて固くなり、旨味が損なわれてしまうという欠点がある。
【０００４】
一方、これに対して、ウニを浸漬する浸漬水を収容しうる透明な容器本体と、この容器本体に開閉自在に取り付けられる蓋体と、前記浸漬水を水切りすることができ且つウニが抜け出ることのない径の小孔を有する水切り用中仕切具とからなるウニ収納容器が提案されている（例えば、特許文献２参照）。このウニ収納容器では、前記蓋体を容器本体から

取り外し、この容器本体を前記水切り用中仕切具とともに反転させてこの水切り用中仕切具を介して浸漬水を排出する。これにより、浸漬水に浸漬されていたウニを前記水切り用の中仕切具に載置させることができる。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００５】

【特許文献１】特開２００５－１０４５７０号公報

【特許文献２】特開２００３－１２８１３９号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【０００６】

しかしながら、このような水切り用中仕切具を持つウニ収納容器にあっては、容器本体を逆さにして水切りするために水切り用中仕切具が必要になり、これを収納容器や蓋体とは別に用意するため、全体が三重構造になり、コスト高になるという不都合があった。また、ウニを取り出す際に蓋体を容器本体から取り外すという作業のほかに、容器本体内から水切りされたウニを載せた水切り用中仕切具を取り外すという煩わしい作業があり、取り扱いが面倒であるという不都合があった。

【０００７】

本発明は、前記のような従来の問題点を解消するものであり、液体と共に収納した収納物が、柔らかく小さくても、液切りの際壊すことなく外部に排出もせず、液体だけを速やかに排液できる液切り容器を提供することを目的とする。例えば、鮮度を保った状態にて浸漬水中に浸漬されたウニの水切りを速やかに、しかもウニに傷を付けずに浸漬水から分離して容易に取り出すことができ、これを簡単かつ安価な構成にて実現できるウニの水切り容器を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【０００８】

前記課題を解決するため、本発明にかかる液切り容器は、底部と側壁部とからなり上部が開口する収納物を液体と共に収納する容器本体と、該容器本体の上部開口に着脱可能に設けられ、該上部開口を密閉する蓋体と、よりなり、前記容器本体および蓋体は、それぞれ合成樹脂材で一体成形され、前記容器本体は、側壁の一部を中心にその左右方向に延びる広めの領域に亘って前記側壁部が底部より連続して所定高さに立ち上がる立ち上がり部と、この立ち上がり部に連続しかつ前記領域における前記立ち上がり部の延設方向と交差する方向に略水平に延びる堰部とを有し、前記蓋体は、前記容器本体の前記堰部に対応する位置に、前記堰部に略対応する形状であって、閉蓋時に該堰部との間に所定の間隙を形成する間隙形成部を有し、該堰部と間隙形成部との間の間隙が液体を排液する液切り通路となり、前記容器本体の上部開口を密閉する前記蓋体には、前記堰部に対応する位置の外周側に前記堰部と間隙形成部との間隙で形成する液切り通路を外部に開放するための第１の蓋体部分と、前記容器本体の前記第１の蓋体部分以外の別の外周部近傍位置に、前記容器本体に通じる通気通路を形成する第２の蓋体部分とが設けられ、前記第１の蓋体部分を開くことによってなされる前記容器本体内の液体の排出が、前記第２の蓋体部分を開いて外気を容器本体内に取り込みながら行われるようにしたことを特徴とする。

【０００９】

この構成により、開蓋状態の容器本体内に液体および収納物を収納して、この収納物を液体に浸漬した状態とした後、蓋体で容器本体の上部開口を、例えば、熱シールによって密封することで、収納物を液体内に傷めることなく鮮度を保ちながら保持でき、出荷、運搬、陳列を可能にし、市場や消費者に提供できる。

【００１０】

一方、容器本体内の液体に浸漬した収納物を食卓に出す際や調理する場合には、容器本体の開口部周縁に、例えば、熱シールされている蓋体のフランジ部に続く前記第１の蓋体部分を剥離して前記外周部（例えば、角部）の一つにおいて容器本体の液切り通路を開放

し、容器本体内の前記液体を容器本体外へ速やかに排出するとともに、容器本体の別の部分において前記第２の蓋体部分を剥離して、容器本体内に通じる通気通路を容器本体外へ開放する。これにより、容器本体内には外気がスムースに取り込まれ、容器本体外への液体の排出をよりスムースに行わせる。

【００１１】

また、前記堰部と間隙形成部との間の間隙で形成する液切り通路が、前述のように幅広い領域に亘って設けられるため、この間隙を通じて容器本体内から、収納物を損傷しない比較的緩慢な流速で、しかも単位時間当たりの液体の通過量を高めながら、この液体を効率的に容器本体外へ排出することができる。この場合において、前記間隙は収納物の通過を阻止するサイズ、形状であり、従って、前記液体の排出時には収納物の流出は規制される。

【００１２】

例えば、ウニの液切り容器であるとすれば、底部と側壁部とからなり上部が開口するウニを浸漬水に浸漬して収納する容器本体と、該容器本体の上部開口に着脱可能に設けられ、該上部開口を密閉する蓋体と、よりなり、

前記容器本体および蓋体は、それぞれ合成樹脂材で一体成形され、

前記容器本体は、一つの角部を中心にその左右方向に延びる広めの領域に亘って前記側壁部が底部より連続して所定高さに立ち上がる立ち上がり部と、この立ち上がり部に連続しかつ前記領域における前記立ち上がり部の延設方向と交差する方向に略水平に延びる堰部とを有し、

前記蓋体は、前記容器本体の前記堰部に対応する位置に、前記堰部に略対応する形状であって、閉蓋時に該堰部との間に所定の間隙を形成する間隙形成部を有し、該堰部と間隙形成部との間の間隙が浸漬水を排水する水切り通路となり、

前記容器本体の上部開口を密閉する前記蓋体には、前記堰部に対応する位置の角部に前記堰部と間隙形成部との間隙で形成する水切り通路を外部に開放するための第１の蓋体部分と、前記容器本体の前記角部以外の別の角部に対応する位置に、前記容器本体に通じる通気通路を形成する第２の蓋体部分とが設けられ、

前記第１の蓋体部分を開くことによってなされる前記容器本体内の浸漬水の排出が、前記第２の蓋体部分を開いて外気を容器本体内に取り込みながら行われるようにする。

【００１３】

この構成により、開蓋状態の容器本体内に浸漬水およびウニを収納して、このウニを浸漬水に浸漬した状態とした後、蓋体で容器本体の上部開口を、例えば、熱シールによって密封することで、ウニを浸漬水内に傷めることなく鮮度を保ちながら保持でき、出荷、運搬、陳列を可能にし、市場や消費者に提供できる。

【００１４】

また、本発明にかかる液切り容器は、前記容器本体および蓋体は平面視で略四角形状をなし、前記堰部およびこの堰部に対向する前記間隙形成部との間隙が、容器本体内からの収納物の流出を規制しつつ前記液体を排水する液切り通路とされることを特徴とする。この構成により、蓋体のフランジ部に続く前記第１の蓋体部分を開くとともに、これに前後して前記第２の蓋体部分をも開くことで、前記堰部と間隙形成部との間隙を収納物が通過することを規制しながら、容器本体内の液体を、前記間隙を通して速やかに容器本体外に排出することができる。

【００１５】

また、本発明にかかる液切り容器は、前記蓋体の天部が周辺部から中心部に向かって低くなるように傾斜または湾曲していることを特徴とする。この構成により、収納物とともに液体を収容した容器本体の開口部を、蓋体によって密着させるように閉蓋する際に、容器本体内の空気をこれの中心部から周辺部、さらには容器本体外へ向かって押し出すこととなる。従って蓋体の密閉後に、容器本体内に空気が残留するのを回避できる。これにより、この空気の残留に伴って発生する液体のにごりの発生を、未然に回避することができる。

【００１６】
また、本発明にかかる液切り容器は、前記堰部は、第１の蓋体部分方向に向かう複数の凹凸部が左右方向に亘って並列されてなり、前記間隙形成部は、前記凹凸部に対応する複数の凸凹部からなり、堰部の凹凸部に間隙形成部の凸凹部が間隙を有して嵌入され、該間隙が液切り通路となることを特徴とする。この構成により、前記液体の出口となる左右方向の間隙長（液切り通路の巾の長さ）を大きくとって、この間隙を通過する液体の単位時間当たりの排出量を十分に高めることができ、液体の排出速度を収納物の損傷を招かない速度に維持しながら、容器本体外への液体の排出をさらに効率的に行わせることができる。

【発明の効果】
【００１７】
本発明の収納物の液切り容器によれば、次のような効果を奏する。
（１）容器本体内に収納物、例えばウニと浸積水（保存液）を入れ、ウニを浸漬水に浸漬した状態で収納し、蓋体で密閉し、この状態でウニを商品として出荷、運搬、陳列等に供することができ、更に消費者に提供することができる。
（２）収納物、例えばウニは、保存液としての浸積水に浸漬した状態で液切り容器内に収納されているので、出荷、運搬の際に揺れや衝撃が発生しても浸積水に護られるので、損傷を確実に防止でき、所定の品質を保持することができる。
（３）鮮度を保持し品質を低下させることなく収納物、例えばウニを収納できると共に、鮮度を保った状態にして浸漬水中に浸漬されたウニの水切りを速やかにでき、しかもウニに傷を付けずに浸積水から分離して容易に取り出すことができる。
（４）蓋体は、天部が蓋体の周辺部から中心部に向かって低くなるように傾斜または湾曲して形成されているので、収納物および液体（例えば、ウニおよび浸積水）を収容した容器本体に蓋体を閉蓋すると、容器本体内の空気を中心部から周辺部、さらには容器本体外へ向かって押し出すことができ、その結果、蓋体の密閉後に、容器本体内に空気が残留するのを回避できる。従って、この空気の残留に伴って発生する液体（浸積水）のにごり現象の発生を防止することができる。
【００１８】
以上、本発明について簡潔に説明した。更に、以下に説明される発明を実施するための最良の形態を添付の図面を参照して詳細に説明する。

【図面の簡単な説明】
【００１９】
【図１】本発明の実施の形態によるウニの水切り容器を示す斜視図である。
【図２】本発明の実施の形態による開蓋状態のウニの水切り容器を示す斜視図である
【図３】本発明の実施の形態によるウニの水切り容器の要部を示す斜視図である。
【図４】図１に示すＡ－Ａ線における縦断面図である。
【図５】図１に示すＢ－Ｂ線における縦断面図である。
【図６】図１におけるウニの水切り部による水切り状態を示す説明図である。
【図７】図１における通気部による通気状態を示す説明図である。
【図８】図１におけるウニの水切り容器の使用状態を示す説明図である。
【図９】図１におけるウニの水切り容器による水切り状態を示す説明図である。

【発明を実施するための形態】
【００２０】
以下、本発明の実施の形態にかかる液切り容器として、ウニの水切り容器の実施の形態を、図１乃至図９を参照して説明する。
【００２１】
図１に示す本実施形態のウニの水切り容器１は、上部が開口する容器本体２と、この容器本体２の上部開口に被せる着脱可能な蓋体３とからなる。容器本体２および蓋体３は、それぞれ合成樹脂材、例えば、ポリエチレンテレフタレート（ＰＥＴ）で一体成形されている。容器本体２および蓋体３は、透明または半透明の合成樹脂材で形成すると、容器１

内を透視できるので好ましい。容器本体２は、底部４と、この底部４の周囲から上方に向かって立ち上がる側壁部５とで構成され、上部が開口する。該側壁部５の上部には段部５ａを介し蓋体３の周辺部と接触して該周辺部との間で着脱可能に連結する蓋支持部６が設けられている。

【００２２】

この蓋支持部６は、前記段部５ａに連続する起立片６ａ、この起立片６ａに連続する水平片６ｂ、この水平片６ｂに連続する垂下片６ｃおよびこの垂下片６ｃに連続するフランジ片６ｄとからなり、主に水平片６ｂが蓋体３の周辺部と接触して着脱可能に連結する。なお、容器本体２内にウニを収納して展示、販売、運搬される状態においては、前記水平片６ｂが蓋体３の周辺部に、例えば、熱シールされて容器本体２内が密閉されている。水切り容器１は、平面視で角形（例えば、四角形や六角形）、円形および楕円形等の立方体形状で構成できるが、この実施の形態では、平面視四角形の立方体形状で示している。従って、容器本体２は、四角形の立方体形状であり、蓋体３は、平面視で容器本体２と略同一形状をなる。

【００２３】

また、容器本体１は、一つの角部（隅部）７ａを中心にその左右に延びる広めの領域に亘って、すなわち図２に示すように、隣り合う二つの側壁部５それぞれの中ほどに及ぶ長さ領域に亘って円弧状をなし、その側壁部５が底部より連続して所定高さに立ち上がる立ち上がり部５ｂと、この立ち上がり部５ｂに連続し、前記領域にある立ち上がり部５ｂの延設方向に対し直交（交差）する方向に、つまり略水平方向に延びる堰部５ｃとを有する。なお、立ち上がり部５ｂはこれが設けられる側壁部５以外の他の側壁部５より、例えば略半分程度に低い高さである。

【００２４】

また、前記堰部５ｃには段部５ａに連続し、図２および図３に示すように、前記領域内において水平方向に複数本の凹部Ｐと凸部Ｑが交互に並設されている。なお、この凹部Ｐおよび凸部Ｑの向きは、前記角部７ａとこれの対角線状にある容器本体２の他の角部７ｂとを結ぶ線に対し略並行となる方向である。容器本体１の角部７ａの対角線上にある他の角部７ｂでは、この角部７ｂ付近で連続する側壁部５が図２に示すように平面部５ｄとなっている。従って、この角部７ｂでは、その平面部５ｄの上縁に繋がる前記水平片６ｂが平面視で略三角形の平坦部６ｅとなっている。

【００２５】

一方、前記蓋体３は、平面視で容器本体２と略同一形状をなし、天部８の外周には係止部９が形成されている。この係止部９は、天部８の外周より連続して立ち上がる起立片９ａと、この起立片９ａから水平に延びるフランジ片９ｂとから構成されている。係止部９は、蓋体３を容器本体２に被せたとき、容器本体２の蓋支持部６に嵌合するもので、これにより容器本体２が蓋体３により密閉される。詳しくは、蓋体３を容器本体２に被せたとき、蓋体３のフランジ片９ｂが容器本体２の蓋支持部６の水平片６ｂに当接して、容器本体２との間を密閉する。

【００２６】

前記蓋体３の天部８の下面には、蓋体３を容器本体２に被せたときの容器本体２の堰部５ｃに対応する位置に、堰部５ｃを構成する凹部Ｐおよび凸部Ｑに略対応する形状の凸部１０および凹部１１が設けられる。この凸部１０および凹部１１は、閉蓋したとき堰部５ｃの凹部Ｐおよび凸部Ｑにそれぞれ嵌入して、これらの間に所定の間隙Ｇ（図５参照）を形成し、この所定の間隙Ｇが容器本体１内に入れられた浸漬水を排出するときの水切り通路となる。以下ではこの所定の間隙Ｇを水切り通路という。

【００２７】

従って、蓋体３の凸部１０および凹部１１は、堰部５ｃの凹部Ｐおよび凸部Ｑに対応する数が設けられる。本例では堰部５ｃの凹部Ｐおよび凸部Ｑが４個なので、それに対応して凸部１０および凹部１１も４個設けられている。また、凸部１０および凹部１１の形状は、堰部５ｃの凹部Ｐおよび凸部Ｑに嵌入可能な形状となる。例えば、凹部Ｐの形状に略

対応する。例えば凹部Ｐが円弧状に窪んだ形状なので、凸部１０の形状もそれに対応してその凹部Ｐに嵌入できる円弧状の凸形となっている。

【００２８】

凸部１０を凹部Ｐに嵌入したとき、凹部Ｐとの間で水切りをする通路となる間隙Ｇを形成するので、凸部１０の先端は、凹部Ｐの底部には当接せずに短くなっている形状である。水切りする通路となる間隙Ｇは、浸漬水２１は通過させるが、ウニの通過を規制する間隔（寸法）に形成する。同様に、堰部５ｃの凸部Ｑには蓋体３の前記凸部１０、１０間の凹部１１が前記同様の間隙Ｇを介して嵌合している。

【００２９】

また、容器本体２の上部開口を密閉している蓋体３の、前記凹部Ｐおよび凸部Ｑに対応する位置は、第１の蓋体部分３ａとなっており、この第１の蓋体部分３ａは蓋体３の他の部分とは独立して容器本体２との間で部分的に開蓋可能となっている。容器本体２の凹部Ｐおよび凸部Ｑは、角部７ａ付近に設けられているので、蓋体３の部分的に開蓋可能な第１の蓋体部分３ａも、蓋体３の角部に設けられている。

【００３０】

具体的には、蓋体３の一つの角部において、折線１２が設けられ、この折線１２より先端側が三角形状の前記第１の蓋体部分３ａに形成され、この第１の蓋体部分３ａが折線１２より蓋体３の他の部分から独立して開蓋できるようになっている。この第１の蓋体部分３ａの先端部は、これの容器本体２に対する開閉操作を容易にする突片１３となって外方へ延出している。

【００３１】

この突片１３の下面には、指先によるこの突片１３の開蓋操作を容易にする突起１８が設けられている。突片１３は指で摘み易い形状、サイズとする。本例では第１の蓋体部分３ａがそのまま延出した三角形状で、容器本体２の蓋支持部６より外方に延出して摘み易くなっている。なお、折線１２の延長線上における第１の蓋体部分３ａの端部には、水切り時においてこれの折れ曲げによる前記開蓋を容易とするために、切欠１４またはスリットが設けられる。

【００３２】

また、蓋体３において、容器本体２の前記平坦部６ｅに対応する部分は第２の蓋体部分３ｂとなっており、この第２の蓋体部分３ｂは前記第１の蓋体部分３ａを除き、蓋体３の他の部分とは独立して容器本体２に対し部分的に開蓋可能になっている。この蓋体３には、前記一つの角部の対角線上にある他の角部に折線１５が設けられ、この折線１５より先端側が三角形の第２の蓋体部分３ｂとなっている。この第２の蓋体部分３ｂは折線１５を中心に回動するように、容器本体の一部を開放可能となっている。

【００３３】

この第２の蓋体部分３ｂの先端部は、容器本体２に対する開閉操作を容易にする突片１６となるように外方に延出されており、指でつまみやすい形状、サイズとなっている。本例では、第２の蓋体部分３ｂの全体が三角形をなし、容器本体２の蓋支持部６より外方へ延出されている。また、折線１５は容器本体２の三角形の平坦部６ｅ上面に対応する位置から外れた、容器本体２の開口部に臨む位置に設けられる。

【００３４】

次に、ウニの水切り容器１の使用方法を説明する。先ず、容器本体２内にウニ２０と浸漬水（保存液）２１を入れ、ウニ２０を浸漬水２１に浸漬した状態で収納し、蓋体３で図１、図４、図５に示すように密閉する。この状態でウニ２０を商品として出荷、運搬、陳列等に供することができ、更に消費者に提供することができる。ウニ２０は、保存液としての浸漬水２１に浸漬した状態で水切り容器１内に収納されているので、出荷、運搬の際に揺れや衝撃が発生しても浸漬水２１に護られるので、損傷を確実に防止でき、所定の品質が保持される。浸漬水２１としては、海水を例示できる。

【００３５】

水切り容器１内に収納されたウニ２０を食卓に出す際や調理する場合には、容器本体２

の堰部５ｃを形成する凹部Ｐや凸部Ｑに対応する位置の第１の蓋体部分３ａが、蓋体３の他の部分とは独立して部分的に開蓋可能となっているので、この第１の蓋体部分３ａで突片１３を摘み上げて第１の蓋体部分３ａを開放し、この開放側を下方に位置させるように容器本体２を傾ける。また、この作業に前後して第２の蓋体部分３ｂを開蓋するように突片１６を摘み上げ、容器本体２の蓋支持部６から引き剥す。これにより蓋体３の第１の蓋体部分３ａで部分的に開放した容器本体２の開放部分から浸漬水２１を流出（水切り）させることができる。

【００３６】

この場合に、第２の蓋体部分３ｂが開かれたことによって、図７に示すように、容器本体２内に連通する通気口１９から大気が導入されて、容器本体２内の浸漬水２１を速やかに、第１の蓋体部分３ａが開かれた前記開放部分から容器本体２外へ排出することとなる。図６乃至図９は浸漬水２１を容器本体２外へ流出させているその様子を示す。

【００３７】

この場合に、容器本体２内の堰部５ｃ上面には水切り通路となる凹部Ｐおよび凸部Ｑが設けられ、蓋体３には該堰部５ｃの凹部Ｐおよび凸部Ｑに嵌入して該凹部Ｐおよび凸部Ｑとの間に所定の間隙Ｇ（浸漬水２１は通過させるが、ウニ２０の通過は規制する間隔）を保持する凸部１０および凹部１１が設けられているので、浸漬水２１は該間隙（水切り通路）Ｇを介し第１の蓋体部分３ａで部分的に開放した開口から流出するが、ウニ２０は間隙Ｇで堰止められる。従って、水切りされたウニ２０だけが容器本体２内に残ることとなる。このように水切りされたウニ２０は、蓋体３全体を開蓋して容器本体２のまま、または容器本体２内から取り出して、食卓に載せたり、調理に供したりすることができる。

【００３８】

また、容器本体２と蓋体３との間に作られる間隙Ｇは、前述のように水平方向に長い領域に亘って設けられている。特に、図５に示すように間隙（水切り通路）Ｇは、水平方向に波形に湾曲しているので一層長い領域となる。従って、第１の蓋体部分３ａによって開放された開口部から容器本体外に流出する浸漬水２１の流量を高めるとともに、一方、そのときの流速を緩慢にして、浸漬水２１の流速を受けることによって本体容器２内や間隙Ｇ部でウニ２０が傷付くのを防止でき、容器本体２外へ浸漬水２１のみを効率的に排出することができる。

【００３９】

特に、水切りの際は、水切り容器１を傾けるので、水切り容器１内のウニ２０は堰部５ｃに集中するが、堰部５ｃの凹部Ｐおよび凸部Ｑと蓋体３の凸部１０および凹部１１が互いに鋭角部分を持たない滑らかな円弧面になるように、容器本体２および蓋体３が成形されることで、ウニ２０が前記集中によって損傷を受けることはない。

【００４０】

また、蓋体３は、天部８がこの蓋体３の周辺部から中心部に向かって低くなるように傾斜または湾曲するように加工してある。こうすることで、ウニ２０とともに浸漬水２１を収容した容器本体２の開口部を、蓋体３によって密着させるように閉蓋する際に、容器本体２内の空気をこれの中心部から周辺部、さらには容器本体２外へ向かって押し出すことができる。この結果、蓋体３の密閉後に、容器本体２内に空気が残留するのを回避できる。従って、この空気の残留に伴って発生する浸漬水２１のにごり現象の発生を未然に回避することができる。

【００４１】

前記においては、堰部５ｃに凹部Ｐおよび凸部Ｑを設け、これらに対し所定幅の間隙Ｇを介して蓋体３の凸部１０および凹部１１を嵌合させる場合を例に挙げて説明したが、これらの凹凸部による嵌合構造とせずに、互いに平面で間隙Ｇを介して平行に向き合う形態としてもよく、前記同様にウニ２０を傷めることなく速やかに容器本体２内の浸漬水２１を排出させることができる。

【００４２】

なお、前記実施の形態は、本発明を制限するものではなく、本発明は、要旨を変更しな

い範囲において、種々の変更が許容される

【産業上の利用可能性】

【００４３】

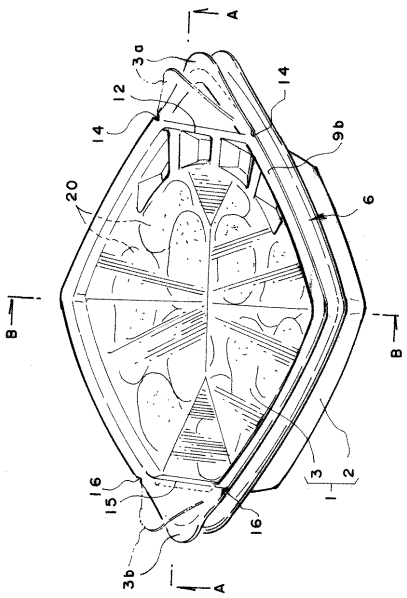
本発明は収納物を液体中に浸漬した状態で収納して、出荷、運搬、陳列を可能にし、市場や消費者に提供でき、液体と共に収納した収納物が柔らかく小さくても、液切りの際、壊すことなく外部に排出もせず、液体だけを速やかに排液する液切り容器に適用して有用である。例えば、鮮度を保った状態にて浸漬水中に浸漬されたウニの水切りを速やかに、しかもウニに傷を付けずに浸漬水から分離して容易に取り出すことができるという効果を有し、容器本体内の浸漬水中に浸漬したウニを、その浸漬水から分離して取り出すことで食膳等に速やかに提供可能にするウニの水切り容器等に有用である。

【符号の説明】

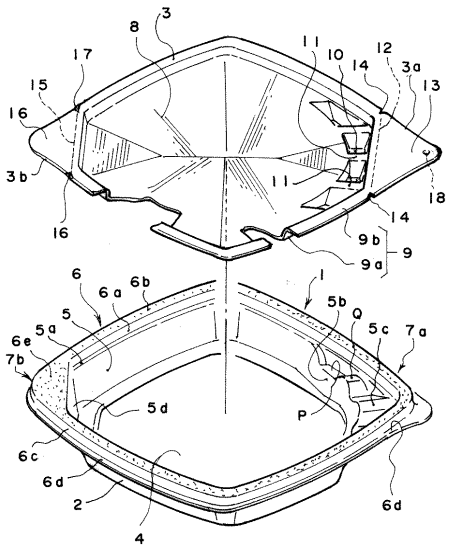
【００４４】

１　水切り容器（液切り容器）
２　容器本体
３　蓋体
３ａ　第１の蓋体部分
３ｂ　第２の蓋体部分
４　底部
５　側壁部
５ａ　段部
５ｂ　立ち上がり部
５ｃ　堰部
６　蓋支持部
６ａ　起立片
６ｂ　水平片
６ｃ　垂下片
６ｄ　フランジ
６ｅ　平坦部
７　角部
７ａ、７ｂ　角部
８　天部
９　係止部
１０　凸部
１１　凹部
１２　折線
１３　突片
１４　切欠
１５　折線
１６　突片
１７　切欠
１８　突起
１９　通気口
２０　ウニ
２１　浸漬水

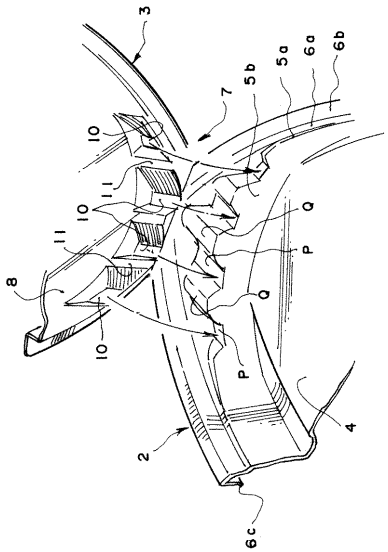
【図１】



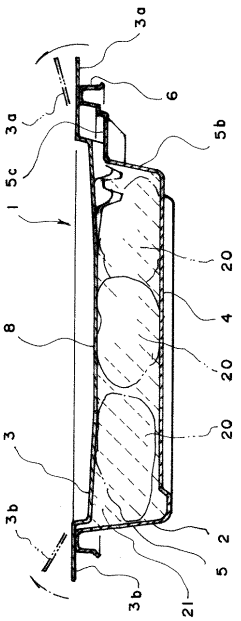
【図２】



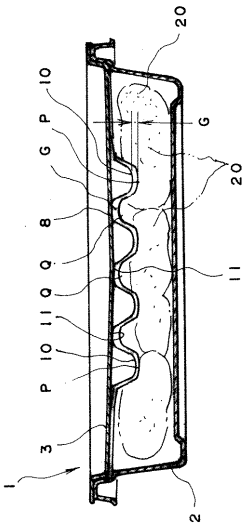
【図３】



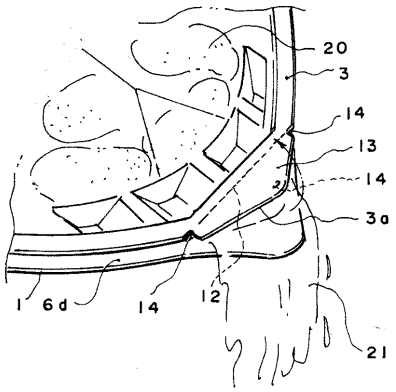
【図４】



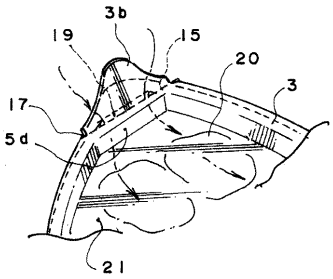
【図５】


20
10
G
P
G
20
8
11
Q
Q
11
10
P
3
1
2

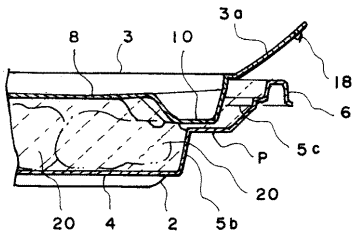
【図６】


20
3
14
13
14
3a
1
6d
14
12
21

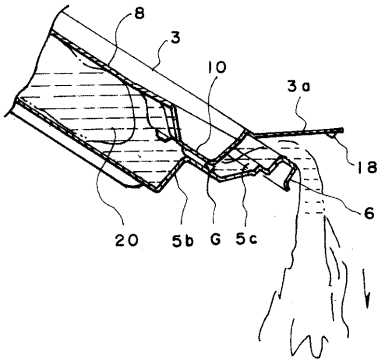
【図７】


3b
19
15
20
3
17
5d
21

【図８】


3a
8
3
10
18
6
5c
P
20
20
4
2
5b

【図９】


8
3
10
3a
18
6
20
5b
G
5c

【手続補正書】
【提出日】平成23年5月27日(2011.5.27)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１７】
本発明の収納物の液切り容器によれば、次のような効果を奏する。
（１）容器本体内に収納物、例えばウニと浸漬水（保存液）を入れ、ウニを浸漬水に浸漬した状態で収納し、蓋体で密閉し、この状態でウニを商品として出荷、運搬、陳列等に供することができ、更に消費者に提供することができる。
（２）収納物、例えばウニは、保存液としての浸漬水に浸漬した状態で液切り容器内に収納されているので、出荷、運搬の際に揺れや衝撃が発生しても浸漬水に護られるので、損傷を確実に防止でき、所定の品質を保持することができる。
（３）鮮度を保持し品質を低下させることなく収納物、例えばウニを収納できると共に、鮮度を保った状態にして浸漬水中に浸漬されたウニの水切りを速やかにでき、しかもウニに傷を付けずに浸漬水から分離して容易に取り出すことができる。
（４）蓋体は、天部が蓋体の周辺部から中心部に向かって低くなるように傾斜または湾曲して形成されているので、収納物および液体（例えば、ウニおよび浸漬水）を収容した容器本体に蓋体を閉蓋すると、容器本体内の空気を中心部から周辺部、さらには容器本体外へ向かって押し出すことができ、その結果、蓋体の密閉後に、容器本体内に空気が残留するのを回避できる。従って、この空気の残留に伴って発生する液体（浸漬水）のにごり現象の発生を防止することができる。

フロントページの続き

Ｆターム(参考) 3E067 AA03 AA11 AB02 AB99 BA10A BB14A EA32 EB25 EE59 EE60
FA01 FC01
3E084 AA05 AA14 AA24 AB01 AB10 BA01 CA03 CB03 CC03 DA03
DC03 FC04 GA08 GB12 KA20 KB01 LA18 LD01